



—中嶋 嶺雄—

全国に開かれた 才能教育組織に

去る五月二十四日付

で才能教育研究会から
私たち設立発起人に寄
せられた書信によれば、「何等かの形を残
したいと考えており、
…新しい構想をもって
再出発する決意です」
とある。父兄や指導者
などを中心に折角集め
た寄付金を返還するこ
うした気の滅入るよう
な選択ではなく、右の
ような建設的な方向を
是非期待したいもので
ある。だが、そのため
には、今や国際的な存
在としての責任をも担
いつつある才能教育研

究会自体、たんに松本
市民に対してのみなら
ず、日本国民全体に対
しても開かれた組織に
なるべきではなから
う。そのことは、いか
にお元氣とはいえず、鈴
木先生のご高齡を考え
ればなおさら必要な課
題であろう。

また松本市民や市当
局の側も、四百年祭を



迎える松本城やいささ
か過熱気味のサイトウ
・キネン・フェスティ
バルよりも、国際的な
知名度と反響という点
でははるかに高く大き
いスズキ・メロイド
を、全世界に広がり通
じている郷里の活きた
文化遺産として、もっ
と大切に思うようにな
ってほしい。独創的な
事業を成した指導者の
ほとんどすべてがそう

であるように、たとえ
鈴木先生の個性の偉大
さの影の何らかの瑕疵
があろうともである。

大学院大学や 国際的総合大学

具体的な提言として
は、次の二つの選択肢
が考えられよう。その
一つは、大学院大学で

ある。わが国の文教行
政上の見地からして
も、個性的な大学院つ
くりはまだ今後の課題
として残っており、大
学審議会の答申にも見
られるように、その設
置基準も柔軟化しつつ
ある。新潟県にある国
際関係専門の国際大学
(私立)のように、学
部をもたない修士課程
のみの小規模な大学院
大学こそ、相応しいの

ではないか。
松本らしき生か
した学部設置を
もう一つは、松本市
および周辺市町村が協
力して、二十一世紀を
切り開く国際的レヴェ
ルの総合大学を新設
し、その一環にスズキ
・メロイドを中心とし

新しい世紀への構想を

国際音楽短大計画の挫折に思う

(下)

た音楽学部ないしは芸術文化学部を設置する
方向である。最近は、
釧路公立大、青森公立
大、宮崎公立大のよう
に、地方自治体との「公
民協力方式」による大
学設置が増えているけ
れど、この場合には国
際関係学部もしくはア
ジア・太平洋学部のよ
うな先端的な学際的学
部とともに、山岳学部
といった郷里によさわ

しくどこにも存在しな
い個性的な学部も設置
すべきであろう。因みに
カリフォルニア大学
サンディエゴ校の海洋
学部は、海のサンディ
エゴに因んだ世界に例
のない一種の大学院で
ある。
新潟、富山、静岡な
ど隣接県が単年度の国
立大学以外にいくつか

私自身、同センター開
設に関する国際諮問委
員会の座長をつとめた
が、桑原市長をはじめ
福岡市当局の熱意と担
当者の人材は抜きんで
ていた。

松本市は、かけがえ
なく美しい自然環境の
中にあるとはいえず、開
かれたローカリズムの
立場から、このあたり
で、世界に向けて発信
し得る文化・学術・国
際交流のための将来構
想を本格的に考えるべ
きではなからうか。

その中心課題とし
て、国際機関への人材
派遣など国際化時代の
要請に応え得る、世界
に開かれたレヴェルの
高いユニークな新しい
大学を設置するという
構想が練られ、松本郊
外が安曇野の一角にそ
れが実現可能になるの
なら、新しい世紀への
投資として市民や県民
の協力も得られるであ

ろうし、最近著しく開
明的になりつつある文
部行政当局の強い支持
も得られるものと思わ
れる。

地方の時代 発想の転換

松本市は、このよう
なかたちで大きく発想
の転換をはかるべきで
あり、さもなければ中
核市としても発展でき
ないばかりか、東京一
極集中への反作用とし
てやがて来るべき本格
的な「地方の時代」に
も立ち遅れ、開智学校、
松中・深志、松高など
の輝かしい教育の伝統
にも背くことになりは
しないか、と太平洋の
彼方で私はいささか
危惧している。

(カリフォルニア大学
サンディエゴ校大学院
客員教授 松本市出
身)